平成21年度
ファカルティ・ディベロップメント
合宿研修会

実施報告

平成21年度テーマ

学士力の育成と問題解決型授業の導入

国立大学法人岩手大学
大学教育総合センター
Iwate University : University Education Center

FD合宿研修会の開催にあたって

岩手大学長
藤井 克己

本年度も大学教育総合センターのお世話になり、FD合宿研修会を企画しましたところ、多くの先生方に参加申込みを頂きました。有難うございます。私自身も国立大学法人化の前年にFD合宿に参加した経験があります。『そろそろ順番ですよ』と半ば強制的に駆り出された形での参加でしたが、出席して意見交流できて大変良かったと記憶しています。この年のテーマは「キャリア形成と卒業研究のあり方」に関するもので、教員が学部や専門の壁を越えて意見交換する、ほとんど初めての経験でした。

当初は教員間でも『FDって何の略?』というレベルの認識でしたが、一昨年の大学設置基準一部改正により、昨年度からその実施が義務化されました。このことは学士課程における学生の質を保証し社会の信頼に応えること、そのために教員の教育力向上を日常的に図ることが必須とみなされていることを意味しています。一方、大学教員個人としてみれば、FD研修は自己の教育活動を見つめなおす好機であり、教員として成長するため欠くべからざる過程と見ることができます。この場合、FDは自己研修のための権利として捉えられるでしょう。

私自身、昨年5月まで28年余り教壇に立ち、卒業研究の指導にも携わってきました。そしてこの1年ほど教育の現場を離れて痛感するのは、大学での教育活動は実に相乗的だということです。つまり学習を通じて学生も成長すると同時に、われわれ教員も成長する機会を得るのです。そしてそれを保証するのは、教員自身が聞く耳を持つこと、つまり常に自省する努力、そしてたゆまぬ向上心でしょうか。まさにこれらが教員の教育力向上に求められる資質といえそうです。

今回のFD合宿研修では、「学士力の育成と問題解決型授業の導入」をテーマに、2日間にわたり討論していただく予定です。『他学部でも悩みは同じだったのか』と問題意識を共有するだけでもFD合宿研修の意味は大きいと思います。活発な意見交換により、これが教員団(faculty)相互の啓発(development)につながることを期待するものです。

FD合宿研修会スケジュール

□1日目

- ■10:30　開会・オリエンテーション
- ■11:20～12:00　話題提供Ⅰ
- ■12:00～13:00　昼食・休憩
- ■13:00～14:40　プログラムⅠ
- ■14:50～15:30　話題提供Ⅱ
- ■15:40～18:00　プログラムⅡ
- ■20:30～21:10　ナイト・セッション
- ■20:15～　情報交換会

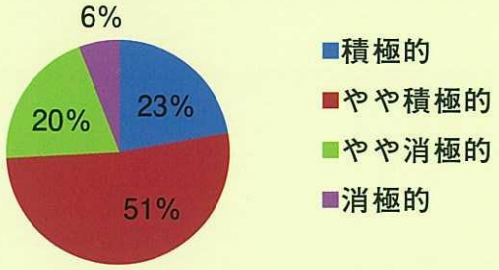
□2日目

- ■ 8:00～10:00　プログラムⅢ
- ■10:10～11:50　プログラムⅣ
- ■11:50～12:10　研修会総括
- ■12:10　閉会

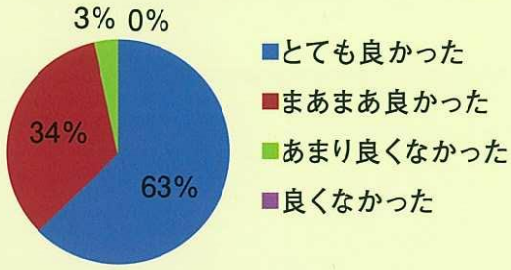
参加者アンケート集計結果

（アンケート回収枚数:36枚）

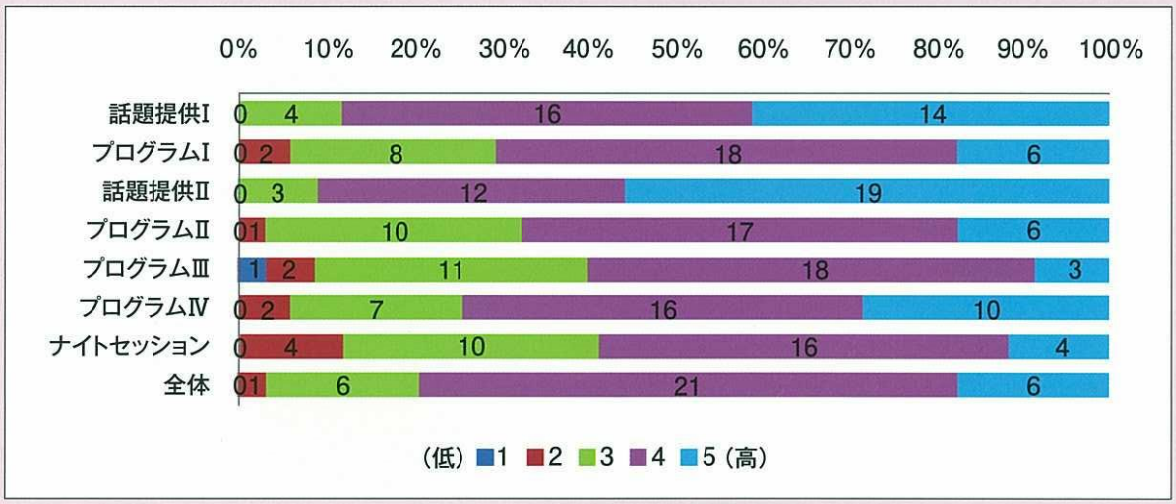
今回の研修会についてどのような意識で参加されましたか?



結果的に、今回の研修会に参加して良かったと思いますか?



今回の研修会の各プログラムについて、5段階で評価し、○で囲んでください。



参加教員からの感想（一部抜粋）

新しい知識を得ることができ、驚きや発見の多い刺激的な研修でした。PBLという取り組みも知ることができ、部分的に取り入れられるよう検討してみたいと思いました。他学部、他大学の活動内容や取り組みを知ることができたことも大きな収得でした。夜遅くまでありがとうございました。（工学部教員）

今年もたくさん学ばせていただきました。PBL、学士力について、個々人が（自分の身近な）問題として考える機会をもつことで、これらについて意識することができたのは大学にとって大きなことだったと思います。ありがとうございました。（人文社会科学部教員）

たくさんのことを学ぶことができました。同様の課題もあり、明日につながる研修となりました。参加させていただき、とても感謝しています。ありがとうございました。（私立大学教員）

すこし過密スケジュールなので、ゆとりの時間があればうれしいです。プログラム内容はとても有意義なものでした。準備、運営大変お疲れ様でした。
（農学部教員）

話題提供I

PBLを大学教育に導入する意義

話題提供者の佐藤洋一先生より、医学教育において教育改革を行うことになった背景やその改革の1つとしてPBL(Problem Based Learning / Project Based Learning)を導入することになった経緯等について話題提供をいただきました。

医学教育では、医学の膨大な知識を学ばせるにはそれをそのまま講義形式で伝達するよりも自分で必要な知識を得ることができる力を身につけさせることの方が重要である、という認識があり、TeachingからLearningへの転換も早くから行われてきました。その結果がPBLやPBL-Tutorial形式の授業として現れています。ただし、このPBLやPBL-Tutorialはすべてを解決できる万能な方法ではないので、従来の講義等と上手く組み合わせ、双方の良さが活かせるような工夫が必要である、という指摘がありました。そして、具体例として、アメリカのメディカルスクールでは、講義形式をやめて、ほぼすべての授業をPBLで実施するカリキュラムがとられた大学もあるとのこと、また、日本の大学でもそれぞれの大学が独自に工夫しながら、PBLを導入しているとのお話がありました。

プログラムI

現在行われている授業の問題点を考える

話題提供Iを受け、プログラムIでは、現在の岩手大学の授業(講義、演習、実習等)の問題点を抽出する活動を行いました。具体的には、グループ単位で、割り当てられた転換教育、教養教育、専門教育の各教育課程別に問題点をカードに記入し、模造紙の上にカードを広げて整理する手順で行いました。

グループワークの後、班毎に模造紙を手に発表を行いました。問題点としては、「学生の問題」「教員の問題」「カリキュラムの問題」「環境の問題」等が上がっており、これらの問題が単独で存在する、というよりも、相互に関連していることが確認されました。

話題提供Ⅱ
導入教育・専門教育でのPBLの具体例紹介

引き続き、佐藤先生より「導入教育・専門教育でのPBLの具体例紹介」というタイトルで話題を提供していただきました。PBLには、大きく「テーマ型（ある与えられたテーマに対し、問題点抽出、情報検索、結果発表などの作業を体験し、問題解決のためのプロセスを身につけることを目的とする）」と「シナリオ型（具体例を通じて、学んだ知識の応用方法を身につける）」があり、岩手医科大学では、1年次前期に「地域医療見学研修」というテーマ型PBLに取り組んでいるそうです。この研修では、学生たちは自分たちで見学先の地域医療の現場を決め、アポイントを取り、インタビューを実施し、それをまとめて発表するというグループ活動を行います。発表内容は年を追う毎に高度になってきており、1年生でもこれだけできるのか、と感心させられるそうです。2年生では、映画『レナードの朝』を題材にしたテーマ型PBLもに取り組んでおり、その様子のビデオが紹介されました。

次に、三重大学、岐阜大学の医学部で取り組まれているPBLを取り入れたカリキュラムの紹介があり、岐阜大学が制作したチュートリアルシステムを紹介したビデオを視聴しました。このビデオには、「良い例」の紹介だけではなく「悪い例」の紹介もあり、PBLは良い面もあるが、必ずしも万能の方法ではないこと、そして、現在はPBLに対して見直しが行われていることも紹介されました。

プログラムⅡ
PBLを取り入れた解決方策を考える

プログラムⅡでは、プログラムⅠで抽出された問題点の解消に、PBLの手法を取り入れられないかについてグループで議論を行いました。グループからは、「PBLは学生の学習意欲の向上、という問題解決に役に立つだろう」「教員の確保が難しいだろう」「カリキュラムの中での位置づけが難しい」「ゼミや卒業研究等でやってきたものがこのPBLにあたるだろう」「上手く取り入れれば、授業外での学生の自主的な学習が期待できるのではないか」「講義とPBLのハイブリッド型の授業なら良いのではないか」「基礎ゼミや情報基礎などの科目は、PBLのように、担当教員が学部を超えた共通意識をもって取り組むべきだろう」など、様々な意見が出されました。医学部で臨床実習を担当する教員からは、「PBLを受講した学生は、自分たちで調べたり、チームで話し合いをする経験を積んでいるので、臨床実習の指導が明らかに楽になった」との発言がありました。

質疑応答の中で、話題提供者の佐藤先生より、「PBLには当然欠点があり、できる学生には不満もある。中間層の学生を伸ばすにはいいが、上と下の学生には決して最適な方法ではない。そのような欠点もあって、今、発展的解消の時期がきている」、「PBLを導入して意義があったことは、教育に対して教員間のコミュニケーションが促進されたことである。個々の教員ではなく、全学的に、組織的に教育を行う土壌ができたことである」といった意見をいただきました。

プログラムⅢ
中教審答申に書かれている『学士力』を学ぶ

2日目のプログラムⅢでは、ファカルティ・ディベロップメント合宿研修会資料集に収録されている中教審答申等の資料を読み、「学士力」なるものの概念を共有することを目的として行いました。時間が十分に確保できなかったこともあり、資料の読み込みや要約の作成には苦労されておりましたが、それぞれの大学において、「卒業するすべての学生に身につけるべき力」として「学士力」を考えていかなければならないことが共有されました。

プログラムⅣ
導入教育・専門教育でのPBLの具体例紹介

引き続き、岩手大学のすべての卒業生に身につけさせるべき「学士力」と、その指導方法、評価方法等の検討を行い、発表を行いました。「学士力」としては、「問題解決能力」「コミュニケーション能力」「論理的思考力」などが挙げられ、「知識・スキル・社会的責任」の3つの分野に分類する、「知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、総合的な能力」の4つの分野に分類する等のアイデアも出されました。また、「基礎ゼミ」やその他の授業科目の中でも、お互いの独立性は維持しつつも横のつながりを持たせるため、担当教員間で理念を共有することが必要、との意見がありました。さらに、評価方法としては、「卒業研究の公開発表会」「卒業論文」によるもの、「卒業試験」によるもの、「卒業後評価」など外部からの評価、授業の中では「ポートフォリオ」の活用などが挙げられていました。

全体討論では、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー、アドミッションポリシーに関する話題が出され、わかりやすいアドミッションポリシーを社会に向けて発信する必要性が確認されました。また、「PBL」や「学士力」等、上から押し付けられることの弊害を懸念する意見が出ましたが、それに対しては、例えば、教員は、学生が卒業する時に「りっぱになったな」と感じるけれども、このように学生が学生生活で身につけた力を言語として表現し、社会に対して示すことが求められているのではないか、それが「学士力」ではないか、といった意見が出されました。

ナイト・セッション

ナイト・セッションでは、環境マネジメント推進室の室長である大塚先生より、「岩手大学における環境マネジメントの取り組み」について紹介がありました。環境マネジメントの取り組みでは学生委員会（EMS）の存在が大きく、環境マネジメントの意識を高めるために彼らが作成した学生向けのビデオ（DVD）を視聴しました。このDVDは、基礎ゼミナールの副読本に添付されており、基礎ゼミナールでの視聴が推進されています。

情報交換会

ナイト・セッションのあとに情報交換会が行われました。情報交換会では、夜遅くまで様々な議論がなされていたようです。

「学士力」の意義について

大学教育総合センター
センター長　玉　真之介

今年度のFD合宿は、「いわて高等教育コンソーシアム」との連携により、岩手医科大学、盛岡大学からもご参加いただき、ステージが1段高くなりました。

教育は科学です。FDは科学的、知的な対話の場です。大学や学部、専門分野が異なっても、科学者という共通に基盤の上に対話は成立します。むしろ、普段はできない異分野との対話から、多くの「刺激」や「揺らぎ」が生まれます。「岩手大学は1つの大学かと思っていましたが、4つの大学だったのですね。」というコメントは、その端的な例です。

今回のテーマである「問題解決型授業」は、専門知識の爆発という分野を越えた現象を背景に生まれた実践です。また「学士力」とは、専門分野別のものではなく、「学士」という学位に相応しい分野を越えた最低限共通の力です。

私たちは、学生の豊かな学びのために、専門分野から一歩出て、異分野と積極的に対話する必要があります。単に議論するだけでなく、異分野と対話してソリューションを導く「対話力」こそ、今の社会が求めている「学士力」のコアなのではないでしょうか。

平成21年度 ファカルティ・ディベロップメント合宿研修会
実施報告

1.目的

高等教育機関としての大学の理念や目標、教育課程のあり方、教育の内容や方法について教員の共通理解を深めるとともに、日頃接点の少ない他学部教員との意思疎通を図ること、そして、教育の質の充実を図り、教員自身の「教育者」としての責任を相互に確認することを目的とする。

2.内容

テーマ:学士力の育成と問題解決型授業の導入

話題提供Ⅰ「PBLを大学教育に導入する意義」
プログラムⅠ「現在行われている授業の問題点を考える」
話題提供Ⅱ「導入教育・専門教育でのPBLの具体例紹介」
プログラムⅡ「PBLを取り入れた解決方策を考える」
プログラムⅢ「中教審答申に示されている『学士力』を学ぶ」
プログラムⅣ「学生に身につけさせる『学士力』を考える」

3.参加予定者

約40名

4.日時

平成21年8月20日、8月21日

5.場所

八幡平ハイツ

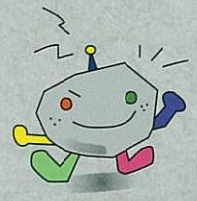
6.主催

岩手大学大学教育総合センター

いわて高等教育コンソーシアム

いわて高等教育コンソーシアムは、教育研究分野の異なる岩手県内の5大学(岩手大学、岩手県立大学、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学)が、自らの大学の特徴を最大に活かしつつ連携を強化するために、平成20年度に設立されました。

今回のFD合宿では、いわて高等教育コンソーシアムの取り組み(FDプロジェクト)の一環として、岩手医科大学の佐藤洋一先生に講師としてご参画いただいた他、岩手医科大学、盛岡大学の先生にも参加していただきました。



岩手大学イメージキャラクター がんちゃん

平成21年度 FD合宿研修会実施報告

発行日:平成21年10月20日
発　行:国立大学法人 岩手大学 大学教育総合センター
〒020-8550 岩手県盛岡市上田3-18-34

FSC ミックス品
FSC認証林及び管理された森林からの製品グループです
www.fsc.org Cert no.SGS-COC-003277
© 1996 Forest Stewardship Council